

【文化学部】令和7年度 FD 活動の「年間報告」

1. 学部独自の FD 活動についての報告（*は必須項目）

(1) 公開授業・ワークショップ

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

①公開授業：

- ・科目：観光と地域社会
- ・担当教員：奥野圭太郎講師
- ・実施日時/場所：2025 年 11 月 7 日（金）4 時間目・T205 教室
- ・*参加人数：36 名（教員 5 名・学生 31 名）

②ワークショップ：

- ・実施日時/場所※公開授業と日時/場所が異なる場合のみ記載してください
- ・*参加人数：6 名（職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください）
- ・ワークショップでの意見交換内容：世界遺産の登録基準の一つである Authenticity は、文化遺産が「本物であること」を意味するが、文化財の乱用によりそれがどこまで担保されるかという問題がある。例えば、京町家の利活用についても、伝統的な意匠に見えても実際には新しく作られたものであるとか、あまりにも行き過ぎたりノベーションであるとか、その本来の形の維持、継承は容易ではない。また、観光は演出するという側面があり、「本物らしさ」を創作する場合がある。文化を守りながら利用するため、見せて地域を活性化するため、どのようなことが求められているのか、このあたりを中心に議論を行った。観光価値と演出された「本物らしさ」の線引きをどのように考えていくのか、文化のクロスオーバーの可能性をどのように探っていくのかという課題について共有できたことは幸いであった。

(2) その他研修会等

※(1)以外の学部 FD として実施する研修会が対象（人権研修会を除く）

【研修会①】

- ・テーマ：文化学部における DH（デジタルヒューマニティーズ）教育の展開
- ・概要：2025 年 4 月から学部に立ち上げた DH 科目ワーキンググループ（科目内容の検討が目的）の成果報告が須永恵美子准教授により行われた。新規開講科目の個別内容と全体構成が詳しく説明されたが、特に基幹科目「デジタルヒューマニティーズ概論」の全容が示されて、学部としての DH が目指す教育目標について、共通理解が深められた。
- ・実施日：2025 年 10 月 15 日
- ・*参加人数：25 名（職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください）

【研修会②】

- ・テーマ：2025 年生成 AI の活用方法—AI の急速な発展と教育現場
- ・概要：生成 AI の活用事例について、Gifutomo LLC AI Jonbin 森本洋平氏を講師として招聘し、話題提供を行ってもらった。諸大学の活用事例について具体的な説明があり、これからは「禁止から設計へ」、つまり生成 AI との共存を前提とした教育設計が急務であると指摘された（学習支援、業務効率化、評価再設計の観点から）。質疑応答の後、参加者間で活発な意見交換が行われた。
- ・実施日：2025 年 12 月 3 日
- ・*参加人数：28 名（職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください）

2. 総括（今年度の学部 FD を通して得られた気づきや見つかった課題等）

・観光と地域社会の望ましい関係を具体的に考えていくために、文化観光学科の3ドメイン「観光文化」「地域づくり」「観光産業」の有機的な連関が重要になることが分かった。さらに3学科間での連携の可能性を探り、京都産業大学文化学部の特徴ある「文化観光学」の提示に努めていきたい。

・学科横断のDH教育について、正確な理解の浸透度合いに課題があり、内外ともに広報が必要であると分かった。新入生のみならず在学生に対しても、機会を捉えては説明を重ねていくべきであり、そのためには教員の側にも一定程度の理解が求められていくことになるだろう。

・生成AIの活用については、研修会で示された学習支援（個別学習のサポート、情報整理、アイデア構築）、業務効率化（教材作成、フィードバック生成、ルーティン自動化）、評価再設計（プロセス重視、思考力測定、アクティブラーニング）の取り入れ方が課題であると認識されたので、実装段階に向けて検討を加速させていく必要がある。

3. 次年度に向けての取り組み

・文化学部は令和8年度の改組によって文化構想学科、京都文化学科、文化観光学科の3学科体制となる。新学部生は、どの学科に所属しても他学科の基礎知識が得られるよう、基幹科目（必修）として「文化構想学概論」「京都文化学概論」「文化観光学概論」「デジタルヒューマニティーズ概論」を履修することになっている。したがって、教員においても他学科のカリキュラムについて一定の理解を備えておくことが望まれる。次年度は「デジタルヒューマニティーズ概論」を公開授業として取り上げ、特にSNSによる発信とリスク管理に学び、教員間で共有する。その後にワークショップを設定し、DH教育の課題や授業内容の質向上に向けた検討を行う。

・もう一つは、生成AIの活用について、教員間で取り組み方を学ぶ機会を設けたい。こうした試みによって、学科間の連携の強化、協力体制の構築を目指し、学部としてのカリキュラムの充実を図るとともに、より魅力的な学部教育が展開できるよう力を尽くしたい。

※この内容は当該年度終了後、本学におけるFD活動の一環として、本学HPに掲載します。